

## 第3 2期青森県社会教育委員の会議第1回全体会会議概要

日時	平成26年12月3日(水) 10:00~12:00
場所	県警察本部庁舎6階 教育委員会室
出席者	<p><b>《委員》敬称略 12名</b>            佐藤 貴子 古川 郁生 横田 渉子 毛利 精悟            柿崎 博 前田 智子 外井 亜希 大沢 潤蔵            七條 いつ子 吉田 圭子 茂木 典子 増田 貴人</p> <p><b>《青森県教育次長》 奈良 和仁</b></p> <p><b>《事務局》 5名</b>            中野 聖子 (生涯学習課長)            渡部 靖之 (生涯学習課学校地域連携推進監)            森田 勝博 (企画振興GM・主任指導主事) 他2名</p> <p><b>《その他》 3名</b>            葛西 浩一 (学校教育課学校教育企画監)            大瀬 雅生 (県総合社会教育センター 教育活動支援課長)            小森 直樹 (県総合社会教育センター 社会教育主事)</p>
内容	1 開会 2 教育長あいさつ 3 青森県社会教育委員について 4 議長、副議長選出 5 案件 (1)調査研究テーマについて (2)専門部会の設置について (3)その他 6 閉会

### 次第3 青森県社会教育委員について

- 事務局より、社会教育と生涯学習の関係、県社会教育委員の役割等について説明。

特に質問等はなく、了解された。

### 次第4 議長、副議長選出

- 事務局より、互選により議長・副議長を選出することを説明。

委員より事務局案を求められたため、事務局案として、茂木典子委員を議長に、吉田圭子委員を副議長にしてはどうかと提案し、全委員の賛同を得て選出された。

#### 【第3 2期青森県社会教育委員の会議】

議長：茂木典子 委員（学識経験者）

副議長：吉田圭子 委員（家庭教育関係者）

## 《議長就任あいさつ》

私の力でどれだけできるかという心配はあるが、委員の皆様が大変素晴らしい方々なので、皆様と力を合わせて、和やかに、そして内容の濃い、成果のあがる会議にして参りたいと思うので、どうぞよろしく願いいたしたい。

## 《委員自己紹介》

- 小学校長を務めている。社会教育と関連させながら学校教育を進めているつもりではあったが、自分の考えがどうであったか、どのように学校現場と社会教育とを結び付けていたかを考えながら、勉強していきたい。
- 中学校長を務めている。地域と学校をどう結び付けていけばよいか、家庭教育がもっと力をつけるためにどうしたらよいか悩んでいる。家庭の中で悩んでいる子どもたちを、社会教育の中で何とかできればと考えている。
- NPO法人に所属し、学校と地域、特に企業を結びつける地域連携を担当している。PTA活動にも参加しており、学校と地域、学校と家庭をどう結び付けていけばよいか、皆さんと一緒に学びを深め、得たものを社会に発信していきたい。
- NPO法人に所属とあるが、本業はファイナンシャルプランナーである。マスコミの勤務経験もあり、その影響はいいものばかりではないと感じている。小学校で絵本の読み聞かせをしており、子どもの喜ぶ姿を見ていると自分も勇気づけられる。
- PTA連合会の理事を務めている。各地域で特色ある活動をしているPTAもたくさんあり、全県から集まって研究会を開催して意見交換や情報共有している。特に今年度は、いじめ防止対策に力を入れて取り組んでいる。
- 中学校PTAの副会長を務めるほか、町の社会教育委員、自殺防止の傾聴ボランティア、人権擁護委員もさせていただいている。一母親として、子どもたちが地域や家族の中で元気になるような活動ができればと思っている。
- 発達心理学が専門であるが、地域の子育て支援に関する研究も行っている。親との関係が原因と思われる、学業に専念できない大学生が見受けられるようになってきた。子どもが育ちやすい環境を考える機会を増やしていただければと思う。
- 6年前から家庭教育支援チームでコーディネーターを務めている。週に1度学校に行き、子どもたちの様子を見ている。不登校も増えてきており、悩みを抱える親と膝詰めで向き合いながら、一つ一つ話を聞いてあげている。
- 保育園の園長を務めている。地域住民の集まる機会が減っている中、夏祭りを開催したところ、150名も集まってくれた。人が集まるとホッとするので、今後も続けていきたい。社会教育委員の活動は非常に幅広いが、人に感動を与え、つながっていくのも一つの役割ではないかと感じている。
- 子どもには幸せに生きていく力を身に付けてほしいと思っている。ドリームマップのインストラクターのほか、スマイルラボという団体で、実際的に腑に落ちるようなワークショップを

行い、最終的にはファシリテーターとして挑戦することを目指す活動をしている。

- 20年ほど前に子育て情報誌の制作活動に携わったのがきっかけとなり、様々な活動を経て、現在は子ども家庭支援センターで、家庭教育に関する情報提供、学習体験事業、普及啓発事業、調査研究事業などを行っている。
- 長く高校に勤め、連携型中高一貫教育や渉外部でPTAを担当した。その後、短大で教鞭をとりながら、附属幼稚園の園長も務めた。ボランティア活動として、コミュニティFMに16年間関わっている。

## 次第5 案件(1) 調査研究テーマについて

- 事務局より、青森県社会教育委員の会議において調査研究のテーマをどのように設定し、その報告書がどのように活かされてきたかを説明。その後、第32期で協議していくテーマを検討するため、本県の社会教育をめぐる現状について説明した。

### 《協議》

議長 事務局から調査研究テーマ設定に向けた現状についての説明を受けて、質問や意見等をお願いしたい。

- 親としては、親がいなくなっても子どもたちが生きていく術を手に入れて社会へ巣立ってほしい。そのために、面倒でも家事手伝いをルール化するなど、不自由な生活に慣れていくことも必要。父親を含めて、自分で自分の気持ちを言えるような環境づくりが大切だと思う。親の意識で分からないからいいや、ではなく、親として学ぶ機会を増やし、積極的に関わってほしい。
- 一生懸命にまじめに取り組んでいる親もいる。子育てに関する情報もあふれていて、子育ては大変だという部分が大きく伝えられている面もあるが、60点ぐらいできていればいいというメッセージを伝えたい。家庭教育支援をテーマにしてはどうか。
- 家庭教育支援は、家庭の家族構成によってばらつきが出てくる。親になったときの構えがしっかりするよう、周囲がサポートしていければよいが、聞く耳を持たない親もいる。子どものためなのか、家庭のためなのか、もっと大きい意味での家庭教育なのか、ある程度の的を絞っていく必要はある。
- 子育てに関する情報はあふれているが、青森で育てていくための情報は少ない。例えば三世代同居が多いなど、青森の地域性に合った情報を伝えていく必要がある。もう一つは世代間交流、シニア世代、親の世代、子どもの世代がどう絡み合いながら地域社会の活動が行われているという視点も大事ではないか。
- 最近の親は、学校で困らせないことを大事にしている。間違っって叱られるのも勉強の一つ。子どもが良く育つという楽しさに気づいてほしい。
- 地域との関わりが重要。私も最初は地域行事に参加していなかったが、子どもの成長とともに、地域行事に顔を出すようになった。一度つながりが得られると、その後も続いていく。どういうきっかけで地域行事に参加するようになるかを探ってはどうか。

議長 これまでの話を総合すると、共通するのは「家庭教育支援の在り方」になると思う。

そのほか、親としての学び、地域とのつながり、世代間交流などもあり、例えば「学びとつながりを生む出す家庭教育支援の在り方」を案としてはどうか。

調査研究の方向性として「学びとつながりを生み出す家庭教育支援の在り方」として協議していくことが了承された。

#### **次第5 案件(2) 専門部会の設置について**

- 事務局より、専門部会の設置を提案。また、人選については議長が指名することを提案。

特に意見は出されず、第32期においても専門部会を設置することが了承された。また、人選についても議長が指名することです承された。

#### **次第5 案件(3) その他**

- 事務局より、今後のスケジュール、会議録の作成、社会教育委員連絡協議会について連絡。

－以上－